

## 第2回 マリンバイオテクノロジー学会若手の会討論会（合宿型）

開催日：8月29日（木）－8月30日（金）

会場：東京海洋大学館山ステーション、館山市、千葉県

企画責任者：モリ テツシ（東京農工大学）、新家 弘也（関東学院大学）、  
矢澤良輔（東京海洋大学）

8月29日-30日に1泊2日の日程で第2回マリンバイオテクノロジー学会若手の会の討論会（合宿型）を東京海洋大学館山ステーションにおいて開催した。昨年度に

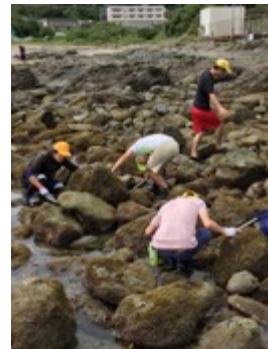


続き2回目の開催で、4大学（東京農工大学、関東学院大学、日本大学、東京海洋大学）から約30名の教員および学生が参加した。今年度は、特別講演の講演

者として、若手の研究者である周防玲先生（日本大学・助手）および壁谷尚樹先生（東京海洋大学・助教）を正式に招待した。1日目は、周防先生には「新規海洋天然物の探索研究」という演題で、壁谷先生には「水産動物の多価不飽和脂肪酸生合成 ～関連酵素の機能と多様性～」との演題で講演して頂いた。また、両先生の講演の間に約25名の学生がそれぞれ自分の研究について発表し、夕方に交流会を行った。翌日、2日目の午前中には、東京海洋大学の館山ステーションの施設見学ツアーまたは近くの海岸で磯採集が行われた。

昨年と同様、本討論会を通じて、学生からは「幅広い分野を学ぶことができ非常に勉強になった」、「他大学や異分野の学生と深く交流する初めての経験だった」、「自分の研究を客観的に見る良い機会になった」など研究に向き合うことを意識した意見が寄せられた。また交流会では、周防先生および壁谷先生ともに多くの学生と交流し、アドバイスをしていた様子も見られるとともに、参加した他の教員からも「他分野の発表が多くとっても勉強になった」などの意見も頂き、若手の研究者にとっても良い機会と

なったと思われる。そして、本討論会は、参加した教員同士でも話合いができる貴重な機会にもなっており、昨年の討論会をきっかけに共同研究も始まっている。その共同研究の成果は本討



論会で学生が発表しただけではなく、Marine Biotechnology Conference (MBC2019; 9月10日-12日開催)においてポスター発表をできるレベルの研究成果が得られ、マリンバイオテクノロジー学会の活性化にも良い機会となっている。

本討論会は、他大学の学生との交流を図ることで学生のモチベーションを上げ、多くの学生に対して大学院進学へのハードルを下げることも目的の一つである。まだ始めて間もないイベントではあるが、本討論会を通じて、学生が他大の学生と交流できるまたは進学を考える場、そして本学会の若手研究者の増員、さらには新たな共同研究を誘発して学会活動を活性化できる場として機能しつつあり、本討論会の立ち上げの目的の一部を達成したと考えており、今後も継続して開催していきたい。